



# 樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校  
〒080-2473  
北海道帯広市西23条南2丁目12番地  
TEL: 0155 (37) 5501  
発行日 令和5年10月31日

## 晴天に恵まれた4泊5日の見学旅行



「高校生活最高の思い出」を作ってもらえるように年次団一同準備を重ねてきました。出発2週間前から新型コロナウイルスによる感染症が広まり、無事に出発ができるか不安な日々を過ごしていましたが、感染症によって影響を受けることがなくホッとしています。

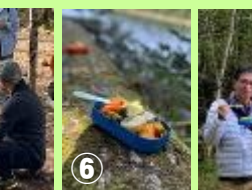
見学旅行中は天候に恵まれ、すべての研修を有意義に過ごすことができました。1日目の清水寺・2日目のクラス別研修・5日目の奈良公園で京都・滋賀・奈良の世界遺産や国宝・歴史的な建造物を拝観。3日目のUSJ自主研修・4日目の班別自主研修で仲間たちと最高の思い出を作ることができました。私もUSJでルイージの帽子をかぶり、生徒とたくさん写真を撮ることができ、とても良い思い出となりました。旅行中は電車の乗り換えや長時間行列に並ぶこと、級友との宿

泊など普段経験することができない、多くのことを経験し帰校することができました。旅行中遅刻や宿泊施設でのマナー違反など引率団から指導されることもありましたが、多くの生徒が結団式の時に確認した「人に迷惑をかけないように行動する」ということを意識して生活してくれました。この見学旅行での経験を今後の人生に活かしてほしいと思います。

見学旅行が終わり、高校生活も折り返し地点です。高校生活の後半戦は今までの努力が問われ、結果が求められる日々となります。1年半後の卒業式を晴れやかな表情で迎えられるように担任団一同ともに歩んで行きたいと思います。

2年次主任 橋本 賢

## アウトドア×防災 / ビニール袋で米を炊く ～ 高P連十勝支部研修会 in 足寄



今年度の十勝支部PTA研修は午前はオンネトーキャンプ場で防災ワークショップ、午後はシードル醸造所を訪問しました。ここでは防災についてご報告します。

とかく災害の備えは備蓄に傾きがちですが、ライフラインの障害がどれだけの期間になるかわからない状況では、長引くほど不安にかられます。しかし、講師の寒川一（さんがわ はじめ）さんは簡易型の浄水器とアウトドア用やかん「ケリーケトル」というアウトドアグッズを防災グッズとして使うことを勧めています。少ない水で食事を作る方法により災害を乗り切ろうとするものです。まず水の確保ですが、浄水器が①です。小型ですがバクテリアや微生物など有害な病原菌をほぼ除去することができるものです。この水をご飯を炊く水に使用しても良いのですが、心配な方は煮沸すると安心かもしれません。今回はご飯にはキャンプ場の水道水を使用しました。無洗米を密封ポリ袋（ジロックとか）に入れ、その倍のレベルまで水を入れます。それを

二つ折りにしてクリップでとめ(②)、お湯を沸かした鍋で煮ます(③)。同時に野菜もポリ袋に入れて茹でると温野菜のできあがり。密封ポリ袋に入れているので、鍋の水は汚れた水で構いませんし、捨てずに何度でも使うことが可能です。次に、ケリーケトルでお湯を沸かします。このケトルは新聞紙1日分を燃やして600mlのお湯を沸かすことができる優れたもの。もちろんその辺りに落ちている小枝でも大丈夫。今回は牛乳パックを細く裂き燃やして、パック1つ半でお湯が沸きました(④⑤)。さて、先程茹でた米は、中の水が無くなったらもう炊けています。皿にフリーズドライのドライカレーの素を置き、ケトルで沸かしたお湯を少しずつかけます。溶けたら炊けたご飯を入れてかき混ぜてドライカレーのできあがり。さらに一緒にゆでた温野菜をトッピングして完成です(⑥)。オンネトーの大自然の中で美味しくいただきました(⑦)。器具を揃えるには多少の出費は必要ですが、キャンプでも楽しみつつ、万が一の時には力を発揮する方法、皆さんいかがでしょうか？

## 第32回 2-1担任・吹奏楽部顧問 伊藤 茜 教諭

### 多様な人との出会いが成長の糧となる

#### ◇教員になって初めての見学旅行引率

前任校ではコロナの影響で見学旅行が急遽中止になってしまったので、今回の引率が教員になって初めての見学旅行となりました。前任校で担任として卒業生を送り出したのですが、見学旅行の分だけぽっかり穴があいているような感覚がありましたが、ようやくそれを埋められたような気がします。特に2年1組は、見学旅行前にコロナに罹患する生徒が相次ぎ、全員そろって行くことができるだろうかと不安に思うこともありましたが、全員そろって出発し、全員で戻ってくることで本心に嬉しかった。生徒たちも旅行中、楽しい表情で過ごし、集団や周囲のことを考えて行動するという経験を積み上げて成長していく様子が見られて嬉しく思います。

1組のクラス別研修は金閣寺を起点に、銀閣寺から哲学の道を散策し、南禅寺、そして伏見稲荷を経て祇園を回るという少し欲張りなコースでした。生徒たちの希望を第一にしながらも、私たち教員側からのアレンジも加えました。生徒たちだけでは見えない所でも、行って初めてわかることもあります。いつか大人になってその価値に気付いてくれたらいいなあと思っています。

#### ◇人生は出会い

私は秋田の出身ですが、秋田県では夏と冬の長期休暇の時に3泊4日の予備校講習というものがありました。その中で博士号を持った教員が高校生と交流する機会があります。私は日頃から疑問に思っていた『致死遺伝子』の仕組みを質問しました。その先生はとてもわかりやすく教えてくださって、生物学への興味が深まるきっかけになりました。ところが驚いたことにその人が翌年の4月、私が高校3年生の春に私の高校の先生として赴任してきたのです。その先生も私が質問した生徒だということを覚えていてくれて、そこからより生物が好きになりました。

した。それまで医療系の進学を考えていた私でしたが、生物学を学びたいと思うようになっていったのです。私にとって人生を大きく変える出会いとなりました。

#### ◇大学時代の授業補助ボランティア経験から

私は大学時代に札幌北高定時制の授業補助のボランティアをしたことがあります。多くは理科の実験の補助をしていたのですが、時には数学の基礎を教えることもしました。様々な背景がある生徒たちと給食を一緒に食べたり、色んな話をすることを通して多くのことを学びました。その中で子供を持つ18歳の生徒のことが今でも忘れられません。ある時、彼女から「先生はなぜ大学に進学したの？」「なぜ生物学を学んでいるの？」と聞かれたのですが、私はうまく答えられませんでした。でもよく考えるとこれはとても大事なことです。なんとなく進んだ大学生活よりも、「社会に出て行ったあとに必要なから定時制で学ぶ」という明確な目的意識のある学びの方が意味のあるものに思えたのです。そして彼女は「学び直しはいつでもできます」と言ったのです。私は一人の人間として尊敬の念を覚えました。この出会いが私を教職へと導く要因の一つとなりました。

世の中には様々な人生を歩んできた人がいて、自分と考え方や相性が合う人もいれば、価値観が異なる人、自分自身の知らない世界を知っている人もいます。私自身、多くの方々からたくさんのことを学んだり、刺激を受けたりしました。同じような経験をしてきた人とか出会っていなかったら自分の世界は広がらなかったと思います。皆さんも、人との出会いを大事にし、多様な人と関わる中で成長の糧となるような経験してほしいと思います。



### インタビュー

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

### 全道高校図書研究大会「図書館活動グランプリ」(T-1)で、初のグランプリを獲得

### きりり 2-3 大野裕季 さん 2-1 桜井愛二郎 さん 2-5 三戸部森理 さん



高文連全道図書研究大会でT-1(図書館活動グランプリ)優勝、そして図書館報コンクール優秀賞を獲得した図書局の2年生3人にインタビューしました。

まずはT-1発表の中心を担った三戸部さんに優勝という結果を聞いた時の感想から聞きました。「優勝できるとは思っていませんでした。あれ？こんなに優勝するのか、というのが正直なところですね」とこれまた正直なお答え。ここで補足するとT-1というのが、それぞれの図書局の活動を持ち時間5分で説明し、その内容やアピール方法等を競うもので、他校は着ぐるみを着たり、小芝居をしたりしてPRするのだそう。ところが我が三条図書局はそんな小細工(?)はせず、大野局長が三条図書局のキャラクター看板を持って、桜井局員のキャラクターを効果的に織り込みながら、「三条図書局の魅力は局員の人柄にある」ことを三戸部局員が語り、つまり言葉だけで聴衆を引きつけ優勝を勝ち取ったのです。

確かにこの三人の人柄、というかキャラクターは魅力に富んでいます。発表の冒頭に「伝説の男」と紹介された桜井さんは、本番での自己

紹介(「三条高校から参上しました…」)を再現してくれましたが、実にお見事。演出の三戸部さんはここで思いっきりスベることを想定していたのに大受けだったそうで、それも多分、桜井さんの大げさに抑揚をつけた台詞回しの賜かと思われます。大学時代、演劇サークルで役者失格の烙印を押されてしまった私(合浦)に、この演技力があつたら…と本気で思わせてくれました。

局長の大野さんは自分の役回りを「私はガヤですから」と終始控えめでしたが、三戸部さんが「魅力は人柄というのは建前」と発言した際に間髪入れず「とても遺憾です」と切り返したのはお見事。さすが局長！優勝した際の司会からのインタビューで「優勝したことを誰に伝えたいですか」という問いかけに「いえ、別に」と三戸部さんが答えたそうで、顧問の高橋先生から「そこは、日頃お世話になっている顧問の先生に言ってほしかったなあ」という突っ込みが入りました(笑)。

図書局はこの楽しい2年生3人の他に本好きでしっかりしている1年生8人で活動しています。毎月図書館報『Library』を発行し読書の啓蒙をしてくれています。大野さんは「図書館で本を読みたい人も、勉強したい人も、話をしたい人も色んな人が共存できる図書館にしたいです」と今後の抱負を語ってくれました。また、桜井さんは借りた本に書き込みを入れたり折ったりする人がいることに触れ「本を大切に扱ってほしい」と述べた上で、「図書館をみんなが楽しめる空間にしたい」と言ってくれました。楽しい図書室に足を運んではいかがでしょうか。